

令和 2 年度 入試過去問題

芸術学専攻

一般入試

第 1 次試験

試験科目 英語

評価基準

読解力、ボキャブラリーの知識、翻訳能力をみる。

問 題 文：(1) 次の英文を、全文和訳しなさい。
(2) 次の英文を、全文和訳しなさい。

- 【出典】(1) Michael Archer, *Art Since 1960*, London: Thames & Hudson, new edition 2002, p. 11
(2) A. N. Whitehead, *Symbolism*, G. P. Putnam's Sons, 1959, pp. 2-3

※ 本学管理棟 3 階 入試課において閲覧できます。(閲覧時間 平日午前 9 時から午後 5 時まで)
ただし、土・日曜日、祝日等の休業日は除きます。

試験科目 地理歴史

※令和 3 年度入試より、芸術学専攻の試験科目「地理歴史」は廃止となりました。

評価基準

歴史的知識、文章構成力、論理性をみる。

日本史 B

問題 1：蒙古襲来について、以下の語句をすべて用いて論述しなさい。使用する順序に決まりはない。ただし、指定語句には下線を引くこと。(600 字程度)

フビライ＝ハン・北条時宗・異国警固番役・文永の役・弘安の役

問題 2：次の歴史上の人物および項目について、各 150 字程度で説明しなさい。

1. 摂関政治
2. 後醍醐天皇
3. 天正遣欧使節
4. 関東大震災

【出題の意図】

問題 1：蒙古襲来は、様々な要因が絡み合いながら展開した。歴史的事項に関する知識を正確に有し、多面的な要素に目配りしつつ、事の推移にそって適切な文章にまとめることができるかを評価する。合わせて、字数相当の文章量であるか、指定語句をすべて用いて下線を引くなど求められている形式に合っているかをみる。

問題 2：歴史上の人物および項目について、正確な知識を有しているか、主要な事柄を中心に、字数以内で適切にまとめているかをみる。いずれの設問でも、時代や場所など基本的な情報は不可欠だが、ほかに取り上げるべき内容は数多くあるため、そのいずれかを挙げていれば加点する。

世界史 B

問題 1：1992 年にコロンブスのアメリカ大陸到達 500 周年を機に、それまでヨーロッパの視点から新大陸の発見」と言われていたこの世界史的出来事に、征服された側の視座の重要性が意識されるようになり、「文化的遭遇」という言い方がされるようになった。世界史上のこうした「文化的遭遇」について、コロンブス以外の例を一つ取り上げ、その功罪について考えを述べなさい。(600 字程度)

問題 2：次の歴史上の人物および項目について、各 150 字程度で説明しなさい。

1. ゴロアスター教
2. ギルド
3. 朝貢貿易
4. ケマル＝アタテュルク

【出題の意図】

問題 1：世界を動かした大きな歴史的出来事を、政治と文化を結びつけて考え、それを字数相当の文章量でまとめることができるかを評価する。問題文を理解し、問いに対応する内容となっているか、また求められている形式に合っているかをみる。また設問にある「文化的遭遇」に該当する事件を独創的な視点で論じた場合には、適宜加点する。

問題2：歴史上の人物および項目について、正確な知識を有しているか、設問を中心に、字数以内で的確にまとめているかをみる。いずれの設問でも、時代や場所など基本的な情報に加え、説明すべき内容は数多くあるため、誤りではない内容が記述されていれば加点する。

第2次試験

試験科目 小論文

評価基準

問題考察力、鑑賞力、文章構成力、論理性をみる。

問題文：次の設問Ⅰ、Ⅱについて、それぞれ六〇〇字程度で論じなさい。

- Ⅰ 図版A・Bを比較観察し、それぞれの表現の特徴や相違点、類似点を踏まえたうえで、自由に論述しなさい。
 - (A) オーギュスト・ルノワール「菊の花束」(メトロポリタン美術館所蔵)
キャンバスに油彩。一八八一年。縦六六・〇×横五五・六cm。
 - (B) 伊藤若冲「動植綵絵 菊花流水図」(宮内庁三の丸尚蔵館所蔵)
絹に岩絵具。明和二～三年(一七六五～六六)頃。縦一四二・七×横七九・一cm。
＊ カラーコピー配付。
- Ⅱ 十八世紀ドイツの詩人で歴史家のヨハン・クリストフ・フリードリヒ・フォン・シラー(一七五九―一八〇五)は、『カリ阿斯書簡』の中で次のように述べています。「芸術美は自然美それ自身ではなく、自然の模倣であり、しかも模倣されるもの〔表現すべきもの〕と質料的にまったく異なった媒体によっておこなわれます。模倣とは、質料的に異なったものの形式上の類似性にほかなりません」(シラー『芸術論集』石原達二訳より)。
これはどのような意味か、説明しなさい。

【出題の意図】

- Ⅰ 東西の菊を題材とする絵画を取り上げた。素材、技法、表現―色彩や構図など―の違いから、異なる印象を受けるだろう。二点の図版をよく観察し、それぞれの表現の特徴を言葉に置き換えることができているか、比較を通して相違点・類似点を分析し、造形について考察を深めることができているか、そして論理的な文章にまとめることができているかをみる。

- Ⅱ シラーの『カリアス書簡』で述べられている自然美と芸術美の比較に関する文章を的確に読解し、そしてそれに対し文脈を踏まえて内容を理解できるかどうかを評価の基準とした。ただし、その文章の解釈については、一律的な解答を求めているわけではなく、むしろ自由に論述してもらうこととした。

試験科目 素描

評価基準

観察力、描写力をみる。

モチーフ：鏡の上に置いた石膏像

配付物：画用紙(木炭紙大)

問題文：鉛筆デッサン